

【6. 補足的視点：新たな機会の捉え方】

インド企業は日本企業の技術やサービスに対する関心が高いのですが、その技術やサービスだけではなく、具体的な提案を行うことが重要です。現地での対話を通じて新たなビジネス機会が生まれる可能性も期待できます。

また、中小企業にとっては、JICA の支援制度の活用も、有効な選択肢となります。

そして何より重要なのは、現地視察の実施です。インドは地域ごとに大きく異なり、現地に足を運ぶことで初めて理解できる点が非常に多いです。



そして、昨今、日本とインドの関係強化が進む中で、福岡にインド総領事館が開設されるなど、福岡・九州には追い風が吹いています。こうした環境を踏まえれば、「今」がインドビジネス参入の一つの好機であると言えます。

インドビジネスにおいても求められるのは、リスクを正確に認識しつつも、その先にある可能性を見据えた戦略的判断です。本稿が、その一助となれば幸いです。

今回のインドへの現地視察・市場調査に関して、多大なるご協力とご支援を賜りました皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

福岡貿易会 前事務局長
西依正博
(現) 福岡市港湾空港局
財産活用担当課長

【7. 最後に】

本視察を通じて明確となったのは、インドが依然として課題を抱えながらも、それを上回る成長可能性とビジネス機会を有している市場であるという点です。

制度面、インフラ、人材、文化といった多様な要素が複雑に絡み合うインドにおいては、日本国内と同様の発想では事業運営を成立させることは難しいです。しかし、現地に根差した経営を実践し、長期的視点で取り組む企業にとっては、大きな成果を生み出す可能性があります。

福岡貿易会インド視察団参加企業 (※五十音順)
株式会社 KYULUX
株式会社正興電機製作所
日本タングステン株式会社
株式会社福岡銀行
公益社団法人福岡貿易会(事務局)